

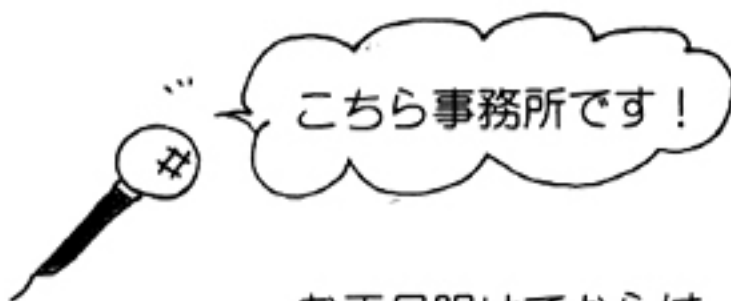
ねじりはちまき

2月 如月 立春 雨水の月になりました。
4日、立春です。8日、針供養。11日、建国記念日です。
14日、バレンタインデーです。19日、雨水となっています。

暦の上では春が始まる月ですが、まだ寒さは厳しい時期です。
2月を如月というのは、着物をたくさん重ね着する「衣更着」に由来するとされています。
しかし、旧暦の2月は新暦の3月頃になるため、より春らしい季節となります。
日ごとに陽気が暖かくなることから、「気更来」ともいわれています。
その他、「雪消月」「梅見月」「木芽月」などの異名もありますが、いずれも春の訪れを伝える語感がありますね。
でも今まだ寒いです。

良くない風邪が流行っています。お引き受けしないよう、お気を付け下さい。

幸田 常一



お正月明けてからは、新築工事現場の打合せをさせていただいたり、倉庫や外回りの点検整備などしています。

人権擁護委員として

実は小生人権擁護委員（法務大臣からの委嘱）を仰せつかって3期目に入っている。今回は「人権擁護委員」としての活動を紹介しながら、「人権」にまつわることを幾つか紹介したいと思う。皆さんの関心を惹きつけられるかどうか心配だが筆を進めてみたい。

皆さんは、「人権」というとどんなイメージをお持ちだろうか。「人権」に対する理解としては、マスコミの報道からみてみると分かりやすいと思う。例えば、県内でもあったが、中学生が「いじめ」が原因で自殺した事例では「いじめ」は「人権侵害」であるし、親が子どもを「虐待」する事例も度々報ぜられるがこれも「人権侵害」である。これ以外にも「セクハラ」や「パワハラ」、それと「ストーカー」、「ネットを使った誹謗中傷」も人権侵害にあたる。また、障がい者に対する差別が人権侵害であることはいうまでもない。

では人権擁護委員の任務は何か、文字通り人権を擁護する役割であるが、具体的には人権に関する相談を受けたり、人権に関する啓発活動をしたり、人権侵害の事案があれば介入し、法務局とともに救済手続きに入る（刑事事件となるものもある）ことになる。

まず、相談業務については、人権に関するものばかりでなく、身近な困りごとも含めて相談に乗る。もちろん相談を受けたものについては守秘義務がある。相談を受ける場所は自宅での場合もあるし、法務局での電話相談（月1回の担当）もあるし、市社会福祉協議会相談所での相談、そして年2回（6月と12月）市内で特設相談所を設けて相談を受けている。その際の相談は相当深刻なものもあるが、とにかく話を聞いて欲しいというものもある。相談を受ける当方の心構えとしては、相談者の話を虚心に傾聴することにある。説教じみたことを言うてはならない。そして、相談者がどんな解決策を望んでいるかを聞き取って、アドバイスをする。より専門的なアドバイスがあった方がよいと思う場合は、その方面の専門機関の窓口を紹介してあげることもある。相談を受けて、どのくらい適切なアドバイスができたか反省することも度々ある。また、このほかに「SOS ミニレター」といって、小中学生から手紙で相談を受けて、アドバイスの返事を出す取り組みもしている。小生はこの担当はしていないが、自殺を予告するような手紙がくることもあるらしい。さて、次に啓発活動について紹介したい。啓発活動は幅が広いが、主なものを取り上げたい。まずは人権の大切さに理解を深めてもらう「人権教室」の実施である。一番多いのは小学校での授業の場である。小学校からの依頼に基づき、外部講師として道徳授業の時間に「人権教室」を行うものである。実施は、学級単位であったり、学年単位であったりする。テーマは成長段階を考慮し、学年によって異なる。教材としてDVDを使用したり、子どもの意見を聞いたり、ワークシートに考えを記入してもらったりしながら、人権の大切さを考えてもらう。「人権の大切さ」としては、友達との関係で「思いやりの心」や「違いを認め合う心」が大事であること、自分の言動が友達に「嫌な思い」を与えていないかどうか「気づき」が大事であること、などを話し、さらに、自分と友達の「いいところ探し」の時間を設けて「お互いを大事に思う心」を培ってもらうように努めている。また、この他小学生を対象としては、小学校単位の「遊友クラブ」へ出講したり、市の「子どもまつり」や「小学校鼓笛隊パレード」へ参画したりして「人権の啓発」に努めている。では、中学生については何をしているかということ、「人権作文」の募集である。県段階及び全国段階のコンクールの形をとっている。県段階では、1万点以上の応募がある。本宮市内の3中学校からも多数応募してもらっている。作文募集のねらいは、人権作文を書くことによって、「人権の大切」を再認識（気づき）してもらおうとするものである。応募作品をみると、テーマは様々であるが、「いじめ」に関するものが多い。「仲間はずれ」にされた体験が結構多いとの印象がある。障がい者に関するものは当事者であったり、兄弟にいたりしての体験も目立つ。家に同居している祖父母と接する中での体験もあるし、外国人との交流を通しての体験など、人権の視点でよく観察し、思いを綴ってくれている。

また、「人権教室」は、高齢者の「ふれ合いサロン」でも要請があれば対応している。小生も年齢的に同じ仲間なので、楽しくひと時を過ごせるように工夫している。それと、啓発関係では、FM モトコムを活用させていただいている。年3～4回であるが、1回当たり15分程度人権について話をする。毎回人権擁護委員の登壇者は変わる。小生も最初緊張したが、少し慣れてきた。でも、FM ってどの位聞いてくれているのかな、と思うのだが。今年の市の夏祭りでは、盆踊りの前の時間帯に啓発活動として「人権ウチワ」の配布を行った。初めてなので、受け取ってくれる人がどの程度いるか心配したが、思いのほか受け取っていただいた。若い人たちと会話をする機会となり、小生にとってはとてもよかった。

以上が人権擁護委員としての活動状況だが、県内では340人、全国では1万4千人程度の人権擁護委員が活動している。人権擁護委員制度が発足してから70年を迎えている。そういう意味では、とても重いものを感じているが、自分たちが望ましい活動ができているかどうかは疑問である。いずれにしても不断の努力が求められているといえる。

次に人権擁護委員に就任して、人権をめぐる問題について知ることになった事柄をいくつか紹介したいと思う。一つ目は、人権に関する法整備が進んでいるということである。例を挙げれば、「いじめ」については、いじめ防止対策推進法があって、学校側の日頃の対策といじめが発見された場合の対応について規定されている。最近の学校調査の中で気になるのは、法律の規定以上の「いじめ定義」を行っている一繰り返し・悪質・集団的であれば「いじめ」に当たらないとしている学校がかなりあるということだ。いじめられる側の立場にたっているとはいえない。自殺という最悪の事態は絶対避けてほしいものだ。二つ目は、児童の虐待を巡る話だ。これもマスコミで度々報ぜられている。親が自分の子どもを虐待するのだ。親は、あなたのやっていることは虐待ですよと告げられると、自分は舐（しつけ）のつもりでやっていると答える。舐と虐待の違いに気づいていないという一親の資格を疑いたくなるような事態がある。これらの虐待は、虐待された子どもから通報されることはなく、虐待を察知した第三者から児童相談所や警察に通報されることがほとんどである。この虐待も最悪の事態を避けるために、児童相談所や警察の立ち入り顕現を強化する法整備がなされている。ただ、虐待した親から保護された子どもが再び親のもとへ帰って家族としての幸せな暮らしができるのだろうか—というのが気にかかる。三つ目は、ストーカーのことである。これも警察に相談しながらも殺人という最悪の事態を招いた案件が重なり、規制法の整備がなされた。それまでのストーカー規制の対象を拡大したり、緊急時にはストーカー行為を止めさせる禁止命令を、事前の予告なしに警察ができることになったのである。

以上挙げた例は、刑事事件と接点にあるものだが、人権擁護委員の任務としては、犯罪に至る前に、未然に防止できるよう努めるべきである、ということになる。

ところで、人権擁護委員の社会的認知度はどうなっているのかな。その存在がどの程度知られているだろうか。その点でもまだまだのようである。さらに努力すべしである。

箱根中央火口丘 箱根山（神山、駒ヶ岳）

箱根外輪山 金時山・明神ヶ岳・明星ヶ岳

【今回登った山の概要】（○は日本三百名山）

- 1/29 箱根山 （はこねやま、○神山かみやま 1438m、駒ヶ岳こまがたけ 1356m）
/30 金時山 （○きんときやま 1212m）
明神ヶ岳（みょうじんがたけ 1169m）
明星ヶ岳（みょうじょうがたけ 924m）

3年前の1月には、ともに日本三百名山の箱根山と金時山を併せて登ろうとしたが、箱根山は前年の火山活動の活発化によって入山が規制され、駒ヶ岳に至るロープウェイまでもが運休となっていた。やむを得ず外輪山である金時山から明神ヶ岳までの縦走だけの山行となった。

今回はその後規制が一部解除された箱根山に是非登りたいと思った。さらに前回気持ちよく縦走した外輪山を再度歩きたいと思い計画した。

前回宿泊したB&Bホテル（ベッドと朝食のみ、入浴なし）に電話したが、閉館した旨のメッセージが流れていた。宿は現地で決めることにし、念のためマット、シュラフ、毛布、水を積み込む。

1月29日（火）

朝7時、どんよりとした曇り空、時々雪が舞う中出発。道路には1~2cmの圧雪がある。東北道は那須を過ぎると関東平野は春の陽気である。圏央道、東名道、小田原厚木道路と乗り継ぎロープウェイ駅のある芦ノ湖畔にある箱根園（プリンスホテル経営）に11:40着。

晴れていて暖かい。準備し12時発の百人乗りロープウェイに乗る。乗客は20人くらい、アジア系の人が多く、白人系もいる。ガイドさんはアジア系の若い女性で日本語と英語でアナウンスしていた。眼下にゴルフ場が広がり、山に囲まれた芦ノ湖は陽光できらきらと輝いている。7分で山頂到着。

南側の展望デッキから見ると、箱根駅伝の着・発の舞台となる元箱根や箱根町の街並みが芦ノ湖と山の間狭いところに密集している。反時計回りに駒ヶ岳山頂北側に行くと立派な朱の鳥居と社殿が建っている。芦の湖畔の箱根神社の奥宮である箱根元宮（はこねもとみや）にお参りし、家族の安寧を祈願する。

雲の無い青空の下、北西に上部に雪をいただいた富士山が圧倒的なボリュームで横たわっている。中腹から下部は黒々としていて、今年は雪が少ないのではないかと思った。

箱根山最高峰の神山に向けて少し下ると、標識があり「火山活動のためこの先のハイキングコースを閉鎖する」と書かれていた。

駅舎に戻り記念のバッジを求める。ロープウェイからは50人くらいの外国人団体客が降りてきた。賑やかだ。

下りのロープウェイから見る芦ノ湖は夕暮れ近い穏やかさの中にある。

途中コンビニで食料を調達し、道を聞きながら金時山の登山口、公時(きんとき)神社を目指す。ナビには出てこなかった。

3年前にも停めたトイレのある駐車場に落ち着く。これから宿を探すのが面倒になり、寒くもないので車中泊をすることに決めて準備する。出かける時の判断が中途半端でガスや炊事用具を持参しなかったことを悔やんだ。

車中で食事し、20時頃には就寝する。

1月30日(水)

6時起床、まだ薄暗い。そんなに冷えなかったので、シュラフと毛布で十分だった。

準備し、食事を摂り、7:30 公時神社(*1)にお参りし出発する。若い男女が談笑しながら先行する。

良く整備され、歩き込まれ、ところどころ階段状の登山道を登って行くと、下ってくる70代後半のおじさんがいた。近所のコンビニでも行くようなスニーカー、はすに被った帽子、前をはだけたジャンパー姿。感じるころがあったので、すれ違うときに、「何回目ですか?」と話しかけてみた。おじさんは立ち止まることなく、振り返らずに「4千2百チョット」との返答がかえってきた。

世の中にはこういう人がいるものだ后感心し、推測が当たったので一人ニマリした。

途中楽しげなペアを追い越し、山頂の手前で下山してきた登山服装の70代後半の単独男性登山者と立ち話をする。彼は御殿場の人でここ20数年間に2千回以上登ったとのこと。あらためて感心する。

9時、箱根外輪山最高峰 金時山、別名猪鼻山(いのはなやま)山頂着、岩がゴロゴロと転がっている。富士山は雲に裾まで覆われていて見えなかったが標高の低い中央火口丘の箱根山や外輪山は見えていた。大涌谷の噴煙も結構高く吹き上がっていた。3年前の1月に登った際は大きな富士山を見ることができて感動したので今回も期待したが残念だった。前日に見た箱根山からの勇姿でよしとするしかない。

山頂は寒く、登ってくる人は、富士山が見えていればその右手に立つ大きな山頂標柱「天下の秀峰 金時山」の写真を撮っただけで、「金太郎茶屋」に入っ

てしまう。「金時娘の茶屋」は閉まっていた。) 茶屋には管理のおばさんがいてお湯を沸かしていた。水や燃料は麓から運んでいるのだろう。お客さんは6人、常連の熟年男性は缶ビールを飲んでいて、自分は心が少し動いたが、これからの縦走を考えてミルクココアで体を温める。

地元小山町が設置している山頂のバイオトイレは新しく、オガ粉を使用して堆肥化できる施設と説明されていた。「大便器使用残り可能数 50」と電光で表示されている。繁忙期に、残り可能数「0」になった場合は閉鎖されるのだろう。

9:40 登山記念バッチを購入し下山にかかる。公時神社との分岐を左に進み明神ヶ岳を目指す。

一定間隔で高さ50cm位の「神奈川県水源の森」の標柱の立つ登山道は稜線上であるが両側が人の背丈を超えるハコネザサが生い茂り展望は良くない。ところどころ開けたところからは、右手に箱根山の大涌谷や振り返るとイノシシの鼻の形をした金時山が望める。残念ながらその後ろの富士山は姿を現してくれなかった。道は歩き易く緩やかなアップダウンをくり返し縦走気分を味わいながら歩を進める。

12時過ぎに着いた明神ヶ岳の山頂は広く展望は雄大で箱根の連山や相模湾が見えるが薄曇りで、何と言っても富士山が見えないことで感動半減だ。植生保護のためロープが張られている。食事の若者が一人と6~7人の人が標識を立て替え作業を行っていた。寒いので長居せず明星ヶ岳方向に下り、宮城野方面(バス停)への下山口との分岐(鞍部)で立ったままの昼食とする。

3年前は、明星ヶ岳には登らずこの分岐からバス停に下りた。今回は明星ヶ岳を目指す。

山頂で食事をしていて若者が下りてきて話をする。東京品川の人で小田原まで電車、登山口までバスを乗り継いで来たとのこと。帰りは強羅(ごうら)からの登山電車利用とのこと。

樹林帯で眺望のない道を登るが晴れてきて暖かく気持ちよい。

13:40、明星ヶ岳山頂に着く。山頂らしくない広い稜線上の樹林の中にある小さな祠は、先行していた若者に教えて貰ったが、見落として通り過ぎてしまいそうだ。(*2)

下山途中開けた急斜面のところに「大文字焼き」の場所があった。(*3) いくつか眺めてみたい。

天気が良くなり、日が射し込む樹林の中の結構急なジグザグの道を下り、宮城野のバス停 14:40 着、運良く10分くらい待ってバスが来て、金時神社入口で降り、駐車場に15:10 到着。

帰りは東名道御殿場ICから乗ることにし、乙女峠を越えて御殿場側を下る

とき、晴れて少し霞みがかった青空の真ん中・正面に、大きな富士山がどっと見えてきた。

叫びたいほどの感動ものだ。

東名道、圏央道、東北道と乗り継ぎ往復 700 k m 超の山旅を無事終える。

- (*1) 説明板：「御祭神は、坂田公時（さかたのきんとき）。平安後期の武将源頼光の四天王の一人とされる。幼名を金太郎といい、怪力の持ち主で熊と相撲を取ったとの童謡にある。強健で武勇に優れた人物として五月人形にもなり、子供の神、健康の神として広く崇められている。五月五日が公時祭り」
- (*2) 説明板：「この山で毎年 8 月 16 日夜、大文字焼きが行われるので“大文字山”とも呼ばれている。大の字の一画は 108m、二画は 162m、三画は 81m」
- (*3) 説明板：「箱根の 3 大夏祭りの 1 つ、大正 10 年避暑客の慰安のために始められ、併せて全山の有縁無縁の霊を慰める、うら盆の送り火としても行われている。当日乾燥したシノダケ約 350 束が並べられ夜 7 時過ぎ花火を合図に一斉に点火される」

平成 31 年 2 月 NO 76 アンチ・エイジング 山旅遊人

<会社近況>

1月末に住宅内覧会を開催させていただきました。
前日雪が降り積り当日も寒い日になってしまいましたが、悪天候にもかかわらずご来場をいただき、誠にありがとうございました。

長くお世話になっていた新築工事の現場もすっかり終わりましたので、現在は、見積り書の作成や諸々の書類の整理、これから始めさせていただく工事の打合せなどさせていただいております。また、倉庫内や外回りの点検整備などしているところです。

おいしい♥2月

「シュンギク」

シュンギク特有の香りがちょっと苦手という方もおりますが、栄養満点ですよ。カロテン、ビタミンC、鉄分、食物繊維も豊富に含まれています。寒いこの時期は、鍋料理によく利用されますね。

かき揚げにしたり、お浸しやゴマあえもおいしいです。
ゴマの脂肪でカロテンの吸収率も高まります。

平成31年 2月 5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1番地1
電話、0243-44-3816

<後記>

緑茶には殺菌作用があるという事でよくうがいをしてはいますが、体のサビ取りによいと聞いたので毎日飲むようにしています。

お茶屋さんからお茶のあめを頂いたので、お茶を飲みながらお茶のあめを食べています。(事務員k)